

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2023年 第22週（5月29日～6月4日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「ヘルパンギーナ 増加続く」

第22週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は3,131例であり、前週比4.6%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.57、3.34、2.95、2.74、0.75である。

感染性胃腸炎は前週比8%減の1,070例で、南河内9.69、三島9.06、中河内7.06、堺市5.53、北河内5.13であった。

RSウイルス感染症は13%減の642例で、大阪市北部7.93、南河内7.50、大阪市東部3.87である。

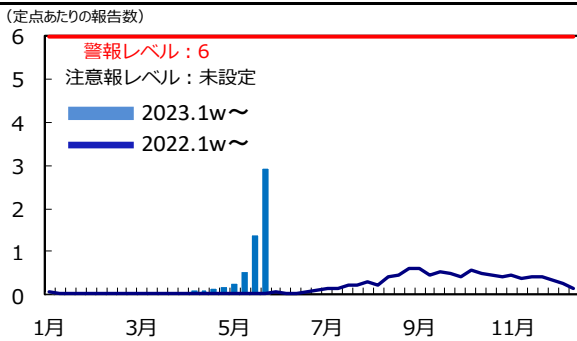
ヘルパンギーナは110%増の566例で、泉州4.30、大阪市南部4.22、大阪市北部3.79であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は11%増の526例で、北河内5.50、南河内4.44、中河内4.22である。

咽頭結膜熱は17%減の144例で、南河内1.44、大阪市東部1.27、泉州1.15であった。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は前週比21%増の968例で、定点あたり報告数は3.33である。堺市4.03、南河内4.00、北河内3.68、大阪市東部3.59、泉州3.26であった。5類感染症に位置づけられて以降、3週連続で増加した。

ヘルパンギーナ



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

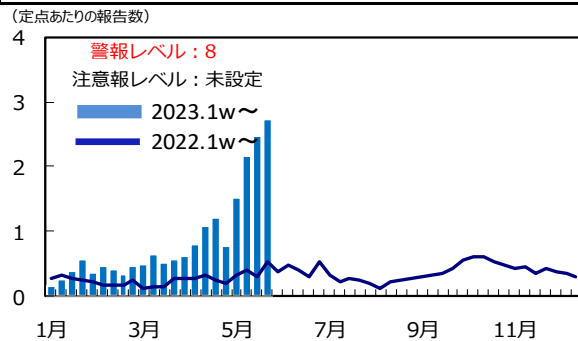


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2023年 第22週5月29日～6月4日）

第22週の順位	第21週の順位	感染症	2023年 第22週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2022年 第22週の 定点あたり 報告数	2023年第22週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	5.57	8%減	5.27	5歳_12%
2	2	RSウイルス感染症	3.34	13%減	0.43	1歳_31%
3	4	ヘルパンギーナ	2.95	110%増	0.03	2歳_22%
4	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.74	11%増	0.50	5歳_19%
5	5	咽頭結膜熱	0.75	17%減	0.54	1歳_35%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	3.33	21%増	-	10歳-19歳_22%

新型コロナウイルス感染症は、定点種別が異なるため、参考として記載しています。

突発性発疹については、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

第22週のコメント

～麻疹～ ワクチンで予防可能な感染症です。2023年第21週時点で、国内の累積報告数は10例です。

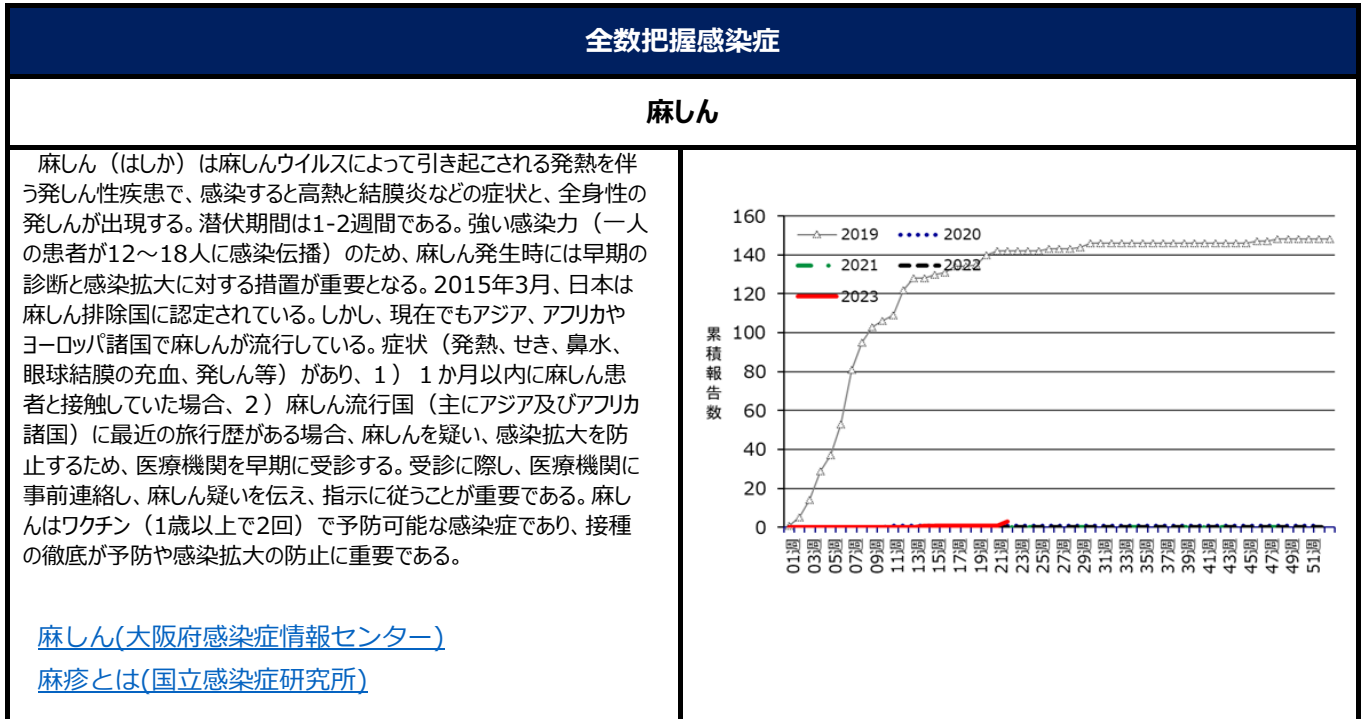


表 2. 大阪府全数報告数（2023年 第22週5月29日～6月4日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内累積報告数									
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数	
3 類感染症	細菌性赤痢	1	1									1
	腸管出血性大腸菌感染症	6		4							2	36
4 類感染症	エムボックス	1				1						16
	レジオネラ症（肺炎型）	4		1		1	2					44
5 類感染症	アメーバ赤痢	1									1	17
	カルバペナム耐性腸内細菌目細菌感染症	1					1					58
	急性弛緩性麻痺	1	1									1
	後天性免疫不全症候群	1									1	29
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2		1							1	23
	侵襲性肺炎球菌感染症	3					1	1		1	1	64
	梅毒	23	1	1	1	2	1			1	16	832
	百日咳	2	1								1	17
麻疹	2	1								1	3	
結核 (2023年4月分)	結核 新登録患者数：87名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 25名) (府内累積報告数 358名、内 肺・喀痰塗抹陽性 128名)											

(2023年6月6日 集計分)